

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
<b>1. 理念の共有</b>						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自由、開放的、安心・安全を理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を念頭におき、日々取り組んでいるが人員がさけず、沿えない時もあるのが現状。	○	存在確認と居室整備をおこなっていく。
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には面会時などを利用しご理解頂けるよう心掛けている。地域の方の理解を得るまでには至っていないのが現状。	○	ボランティア、運営推進委員会などで浸透させていく。
<b>2. 地域との支えあい</b>						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時に畑仕事している人と挨拶程度の付き合いのみ。		
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での催し物には出来るだけ参加し、交流をもてるよう努めているが、参加機会は決して多くない。	○	地域支援事業や地域老人会との交流を考えていく。
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	なかなか取り組めていないのが現状。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>						
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が評価結果の改善策に向けて取り組んでいる。		
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年3回、運営推進委員会を実施しグループホームからの報告を行い、参加者の意見をサービス向上につなげている。		
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢者支援課や地域包括支援センターの職員と連絡をとり、指導を受けている。グループホーム連絡会の活動を通して市町村との関係を強めている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要に応じて活用できるよう支援する体制は出来ている。		
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないよう日頃から防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	左記の通り十分な説明をおこない理解、納得を図るよう努めている。		
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	柏市介護相談員が定期的に来苑していて、相談内容を検討し合っている。		
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時および電話連絡にて報告している。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。	○	苦情などを言いやすい関係の構築
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、セクション会議を行っている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	新しい勤務時間を導入するなどしている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動については広報誌で家族に連絡している。ダメージとならないよう異動者への教育をしている。		
5. 人材の育成と支援						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ユニットごとに研究課題を決め発表する。外部研修に参加している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会の交流会などに参加している。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	なかなか出来ていない。各自、職場外での発散が望ましいのではないかと。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各々の持つよさを誉めながら自発性を伸ばしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	内覧時、面会時を通してご本人様に話を聞くよう努めている。(入居後も同様)		
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	内覧時、面会時を利用しご家族の要望などを聞くように努めている。(入居後も同様)		
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて左記のような体制は取れるようになっている。		
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の役割の大切さについて話し合い、家族が共に宿泊するなどし利用者に安心を与える。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	各入居者の得意なことを発表してもらったり、教わる機会を作っている(楽器演奏、生け花、しめなわ、習字、折り紙、俳句、料理など)		
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事に家族も参加してもらい、一緒に楽しんでもらう。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族と話し合いをする中で、その理解に努めるようにしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
30		馴染みの人や場との関係 継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状を出したり、一緒に外出されている。		
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が間に入り、会話をしたり、レクをおこない、仲間意識を高めるよう支援している。		
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特養に移動された方に散歩がてら会いに行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
<b>1. 一人ひとりの把握</b>						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望などを聞き、出来るだけ沿える様対応している(カンファレンス実施など)。		
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録にまとめ、目を通すようにしている。	○	表面上でなく内面をもっと知っていけるよう努めていく。
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	定期的なミニカンファレンス実施している。必要あればその都度情報収集おこなっている(センター方式など使用)		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	問題点があればケアマネ、スタッフ間で意見交換行い、家族にも相談、報告している。		
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要であればその度、再アセスメント、モニタリングし最善策を探っている。		
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、ケアプラン考察に記入している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	新館、本館、特面などを利用している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	介護相談員、ボランティアが定期的に来苑している。	○	地域資源の活用を考えていく。
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	左記の通り体制は出来ているが、現在他のサービスを利用されている方はいない。		
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター職員と連携とれている。		
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院から担当医が訪問し、月2回の定期往診を受け、変化があったときは家族に報告している。		
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院の担当医と相談し、治療を受けている。		
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が定期往診に立会い、日常の健康のチェックも行っている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は見舞いに行き、安心できるような声掛けを心掛けている。家族や病院関係者と連絡を取り、早期退院に向けた話し合いを行っている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時、緊急時にどのような対応をするのかあらかじめ家族に確認をとっており、重度化した場合再度医師、家族等と話し合いを持っている。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	心身ともに苦しまないようなケアをする為に医師、看護師、家族、職員で何度も確認をおこなう。現在の所、終末期を出来る限りグループホームで過ごし最終的には病院で最後を迎えている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
49		住み替え時の協働による ダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族とは十分話し合い、情報の提供や退居後の支援を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
1. その人らしい暮らしの支援						
(1)一人ひとりの尊重						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の居室に入る際には必ず声をかけたり、排泄介助にもプライバシーには配慮している。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定を尊重しており、希望や意見を表現出来るような場面作りや言葉かけに配慮している。		
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを尊重したケアを行っている。	○	何となく決まった生活となっている為、ニーズの掘り起こしに努めていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧をしたり、洋服を選んでもらったり、その人なりにお洒落を楽しまれている。ご家族と共に、なじみの美容室に行く人もいる。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週一度、利用者と昼食を作る日を設けている。また、常時食事作りや片付けを無理のない程度に一緒に行なっている。		
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、たばこなど好みのものを好きな時に楽しめるようになっている。	○	お酒が飲みたいという利用者の為に検討していきたい。
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表によりチェックをおこない、排泄のパターンを把握し失禁を減らすように支援している。		
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	前日に入浴していない人を優先的にしてしまいうこともある。季節により菖蒲湯、柚子湯などを取り入れている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	見当識からの不眠は時計を見ながら時間を伝えたり、安心する声掛けをおこなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カーテン締め、料理、食器拭きなど自分の役割と思っている人も多い。歌、カルタ、習字、散歩など楽しみごとの支援をしている。		
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事で安心する方にはこづかい程度のお金を持ってもらっている。必要があればその都度小口現金よりひきだせる。		
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日のように行ってる人もいる。希望があれば一緒に買い物に行けるように支援している。		
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日帰り旅行やドライブを実施している。	○	家族協力の依頼や促しをもっと考えていく。
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に要望はないが、いつでも希望には支援できる。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お茶を出し、気兼ねなく利用者と過ごしていただけるような雰囲気作りをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はかえって入居者が不穏になることを認識し、ケアを実践している。		
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の人員が十分でないときは、鍵をかけている。		
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に入居者の所在、様子を見守り安全に配慮している。		
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物、洗剤など注意の必要な物品は決まったところに保管している。歯磨き粉を顔に塗る人には居室におかないようにしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対策委員会を設け、毎月1回話し合いをおこない事故防止に取り組んでいる。		
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	2、3ヶ月に1回のペースで救急法をおこない、毎回テーマを替え取り組んでいる。		
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	現在避難訓練を協同で1回、自主訓練1回を行う。2階からの避難には今後も検討続け、平屋からの避難も検討する。	○	2階、平屋からの避難方法を考えていく。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会での報告の際に近況を細かく伝える。	○	家族への理解をこれまで以上に話し合っていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者に変化があれば随時申し送りを行い、悪化しないよう努めている。看護師とも相談し、対応を決めている。		
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はこちらで管理し服薬の際には顔、名前確認し支援する。薬の知識だけでなく、すぐに何かあった場合対応できるようにしている。		
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	2週間に1度の定期往診や看護師との話し合いによりその都度対応している。		
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に声掛けや出来ない方へはその出来ない事を援助する。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定や普段の食事、水分をチェックし、常に対応できるようにしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手指消毒や加湿おこない、予防に努めている。		
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味、消費期限を確認している。食器洗いのほか、熱湯消毒もおこなっている。まな板などは毎晩漂白、消毒している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>						
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周辺には来苑者の目を楽しませるように花を育てている。		
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにて花を飾ったり、行事の写真を飾りその季節に近い状態を提供している。		
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ダイニングに分かれ仲の良い人と過ごせるようにしている。		
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用している家具や写真などを持って来られていて主にとって過ごしやすい空間の提供に努めている。		
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気が良い時は窓を開け換気をおこなっている。外気との温度に注意し、室内の環境を管理している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に合った居室内の空間を提供する為、柵などあったものを考えている。		
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、お風呂場などに目印を貼る。カレンダーの日付に○印をつけるなどしている。		
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターにて野菜を作り、畑でも野菜を作っている。玄関前には花を育てている。		

(様式1)

## 自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者がころへ出かけている ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどいない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ毎日のように</li> <li>②数日に1回程度</li> <li>③たまに</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①大いに増えている</li> <li>②少しずつ増えている</li> <li>③あまり増えていない</li> <li>④全くいない</li> </ul>
98		職員は、生き活きと働けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての職員が</li> <li>②職員の2/3くらいが</li> <li>③職員の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者が</li> <li>②利用者の2/3くらいが</li> <li>③利用者の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族等が</li> <li>②家族等の2/3くらいが</li> <li>③家族等の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>